

マッチングアプリ文化における ネットワーク化された性的公衆の出現¹⁾

チャン・リクサム

マッチングアプリは、恋愛・性的な出会いのためだけでなく、関係的な可能性のワクワクするようなバーチャル世界と中国社会の異性愛規範・家父長制を反映した権力ダイナミクスの場への入り口でもある。本稿では、マッチングアプリ文化のジェンダー／クィア・ポリティクスを捉えるための理論的概念として「ネットワーク化された性的公衆」というものについて説明する。特にその5つの特徴のうち2つを取り上げる。第一に、マッチングアプリが抵抗と支配の場となっていることである。いかにして異性愛女性とクィア・コミュニティがマッチングアプリの様々なアフォーダンスを活用し、家父長制と異性愛規範に抵抗しているのか、またクィア・コミュニティが自らの領土を再要求しているのかを述べる。第二に、マッチングアプリの利用者がアプリに付与する意味というものが、心理的動機に還元し得ないことである。具体例を示しながら、セックスを求める行為が性別や性的指向を異にする様々なアプリ利用者にとって異なる意味を帯びている様子を説明する。「ネットワーク化された性的公衆」の概念を説明し、新たな通信技術に関するインターセクショナルでクィアかつフェミニズム的な研究の今後の行方について道筋を示したい。

キーワード：マッチングアプリ、ジェンダー・クィア・ポリティクス、通信技術、中国

筆者は、2021年に『マッチングアプリのポリティクス (*The Politics of Dating Apps*)』(Chan, 2021)を上梓した。この研究では、中国南部在住のマッチングアプリ利用者69名(ストレートやクィアの男女を含む)を対象とするインタビュー調査を行い、デジタル・プラットフォーム——筆者の研究では特にマッチングアプリ——が現代のジェンダー／クィア・ポリティクスにおいて

どのような役割を果たしているのかを探った。

中国では、ストレートの人々の間では、Momoというアプリの人気の高い。ゲイ向けアプリではBluedとAlohaが、レズビアン向けアプリではRelaとLesdoが市場をリードしている。筆者は、これらのアプリやそのユーザーによって生み出されたデジタル空間を論じる上で「マッチングアプリ文化におけるネットワーク化された性的公衆」という概念を提示したが、その理由は主に二つある。

第一に、マッチングアプリに関するメディア言説の多くが性行為の持つ行動的側面とそれに関する健康・身体的なリスクに焦点を当てているためである。ジェンダーのダイナミクスやクィアネスに関わる問題は無視されてきたのである。

第二に、私が学んだメディア・コミュニケーション研究では、フェミニズム研究とクィア・スタディーズの間に分離があるためである。前者では、レズビアンイズムやドラッグといったパフォーマンス、トランスジェンダリズムは軽視されてきた。他方でクィア・スタディーズでは、しばしば女性の体験は軽視されてきた。国際コミュニケーション学会（ICA）でも、フェミニズム研究の部会（Feminist Scholarship Division）とLGBTQ研究のグループ（LGBTQ Studies Interest Group）は分かれている。そのため筆者はマッチングアプリについて研究する際にジェンダーやクィアの議論を統合するような一貫した理論的枠組みがないという問題に直面してきた。これらの理由から、筆者は意識的な理論介入として「ネットワーク化された性的公衆（networked sexual publics）」の概念を提唱してきた。

「ネットワーク化された性的公衆」には五つの特徴がある。

- 1 そこに抵抗がある時には支配もある。
- 2 ネットワーク化された性的公衆は、多数の関係性のことである。
- 3 マッチングアプリにユーザーが付与する意味や情動は心理的な動機に還元できない。
- 4 ネットワーク化された性的公衆は地域に固有のものである。
- 5 誰もがネットワーク化された性的公衆にアクセスできるわけではなく、またアクセスできる者にとっては繋がることに伴う代償がある。

本稿では、これらの特徴のうち一つ目と三つ目の特徴について論じることとする。

第一の特徴は、ネットワーク化された性的公衆において、抵抗が存在するとき、支配も存在するということである。読者の多くが気づくだろうが、これ

はミシェル・フーコーの有名な言葉、「権力あるところに抵抗あり」(Foucault, 1979: 95)を参照したものだ。フーコーの言わんとすることは、弱者にも何らかの希望を与えよ、というものであるが、筆者が強調したいのは、我々は権力というものの性質に関し無知ではいられないということだ。なぜなら権力というものは必ず失地回復の方法を見出すからである。

筆者の調査では、多くのインフォーマントがマッチングアプリの使用を通じて、家父長制や異性愛規範に抵抗しているのを垣間見た。

たとえば、康斉(Kangqi)という異性愛女性は数年間「オープンな関係」(パートナーがいながら複数と関係を持つこと)を続けていた。彼女は次のように筆者に語った。

[私の住む町では、Momo]のユーザーはあまりいなかった…。私はある男性と気軽に性的関係を持ったのですが、それは純粹に性的で、互いに満足する関係でした。私は、小さな町ではオープンな考えです。

また別の異性愛女性、ブラディ(Brady)はTantanというアプリの利用経験について語ってくれた。

退屈すると、アプリを見て近くに素敵な人がいないか探して、男性たちのプロフィールをチェックして、素敵だったら「いいね」します。

これらの引用には、異性愛の女性たちが自らの性的エージェンシーを行使し、マッチングアプリで見かけた男性たちをモノ化する様子を見出すことができる。

クア島の男女も異性愛規範に抵抗していた。ゲイのマッチングアプリ利用者に関する先行研究が指摘するように、筆者のゲイのインフォーマントも、BluedやAlohaのようなゲイ向けアプリを使えばいつでもどこでも近くにいるゲイの男性を探することができる、と話していた(Blackwell et al., 2014; Crooks, 2013)。公園や公衆トイレで恋愛や性のパートナーを探さねばならなかった、かつての状況と比べると大きな改善である。

中国のマッチングアプリにはライブストリーミング(動画配信)機能を持つものが多い。チャーリー(Charlie)という女性の同性愛者は、クア島を支援する非政府組織である親友会(親友会, Qinyou Hui, 英語名:PFLAG China)²⁾が制作するライブストリーミングでカミングアウトについて学んだ、と話してくれた。

カミングアウトする前に、親友会のライブストリーミングで、何人かのレズビアンが自らのカミングアウト体験を話すのを見て、彼女達に質問をしました。母にカミングアウトした後も、彼女達が親御さんと出ていたライブストリーミングを見ていました。親御さん達に、私の母ががっかりするのか、不快に思うのか、聞いてみたかったです。

こうして、チャーリーは両親にカミングアウトする前に、その技巧を身につけたのである。そしてカミングアウト後も、ゲイの子ども達の親が経験を共有し合うライブストリーミングを見たという。チャーリーは、自分のセクシュアリティについて親が実際にどう思っているかわからなかったという。したがって、他の親達から学ばねばならなかったのだ。この物語は、マッチングアプリが性的マイノリティに対して資源と情報を与えていることを示している。

しかしながらマッチングアプリは抵抗に資するばかりではない。権力と抵抗は相互関係的な特徴があるために、抵抗の場は権力の再主張に利用されることが避けられないのである。

女性がアプリ上で男性を見る時など、マッチングアプリを使って女性が家父長制に抵抗する様子については既に述べた通りであるが、筆者の研究では、女性が家父長制に抵抗するのと同じやり方で、男性がマッチングアプリ上で女性をモノ化する事象も多数見られた。男性がマッチングアプリでどのように女性をモノ化するのか、その具体例を見てみよう。

これはフレッド (Fred) という25歳の若い異性愛男性の話である。彼はMomoで知り合った女性を二段階の手法で分類していた。まず魅力の度合いで分類した後、とても魅力的な女性には相手にされないからと、声をかける時間の浪費はしないという。つまり、そこまで魅力的ではない女性達にのみアプローチし、彼女達のWeChat (ウィチャット：中国のメッセージアプリ) の連絡先を手に入れようとしていたのである。なぜWeChatの連絡先が必要なのかと尋ねたところ、MomoからWeChatへのコミュニケーションの切り替えは「中央での後宮管理」だという。後宮とは、帝政時代の中国における皇帝の側室の住まいである。彼がどんなメンタリティの持ち主か、想像できるだろう。彼は、Momoで知り合った女性達を自分の「モノ」と考えていたのである。

第二段階でWeChatへと移ると、フレッドは女性一人一人に一つの文字を付与していると述べた。

「B」は直接会ったことがある女性達を意味します。「F」はまだ会ったことのない女性達です。「Z」は基本的に会いたくない女性達という

意味です。

フレッドは私に連絡先のリストを見せてくれたが、それぞれの女性に一つの文字が付けられていた。職場等、日常生活で会う女性とMomoで知り合った女性達の混同を避けるために、彼は前者のグループはAで印をしていた。こうすることで、女性の同僚や「普段の」女友達に誤って不適切なメッセージを送ってしまうのを防いでいた。彼は女性たちを分類して接触の戦略を変えていたのである。

中国の文化では、女性に等級をつけることは珍しくない。女性を公にランク付けするエンターテインメントの分野もある。しかし、Momoやその他のマッチングアプリでは、モノ化のレベルが強化され、極めて私的なものとなっている。

クィアのマッチングアプリでは、ユーザーは異性愛規範から逃れることができる一方で、レズビアン向けアプリの中には、厳格な性役割の分類を使って異性愛規範を存続させるものもある。例えばRelaがそうだ。

Relaでは、ユーザーアカウントを作成すると、自分の情報を入力するように求められる。その際にT、P、Hと表示されるのであるが、これはレズビアンの関係における異なる性別ラベルを指す。アカウントを作成するときにこのラベルのいずれかを選択しなければならない。筆者や他の研究者らが批判するのは、このリストは人が安定したジェンダー・アイデンティティを持ち、一度に一つのアイデンティティしか持たないことを前提としていることである。ジュディス・バトラーは、ジェンダーは反復的な行為によって構築されるものであり、本質的なジェンダー・アイデンティティは存在しないと主張している(Butler, 1999)。つまりクィアの出会い系アプリは、ユーザーにクィアな欲望を行使させる一方で、厳格なジェンダーの分類を強化してもいるのだ。

筆者は、異性愛男性のアプリユーザーがすべて悪で、クィアなデートアプリがすべて異性愛規範を持つ人の陰謀者だと言っているのではない。事実、ネットワーク化された性的公衆の支配的権力には、都合のいい唯一のスケープゴートがいるわけではない。そうではなく、女性の異性愛者やクィアの人々が家父長制や異性愛規範に抵抗するために利用しているデートアプリのアフォードンスとまったく同じものが、家父長制や異性愛規範を強化するために抑圧的な論理に利用されていることを指摘しているのである。

次にもう一つの特徴、すなわちユーザーがマッチングアプリに付与する意味は、心理的な動機に還元できないということについても論じたい。

最近のマッチングアプリ研究の多くで使われている主要な研究枠組みは、利用と満足理論(Uses and Gratification Theory, 通称U&G)である(Katz et

al., 1973)。U&Gは、人々がメディアを使って何をするのかを見るために、コミュニケーション研究者が作った理論である。この理論では、メディア・オーディエンスは自分のニーズを満たすためにメディアを積極的に選択すると仮定しており、さまざまな研究論文が、人々がマッチングアプリを使って満たすべきニーズ、利用の動機を明らかにしている。

すべての研究で、セックスを求めることが、人々がデートアプリを利用する最も一般的な理由の一つだと指摘されていることは不思議ではない。しかし、異なる属性の利用者の間でそれを同質だとするのは誤りである。なぜなら、セックスを求めることは、アプリユーザーの集団ごとにかなり異なる意味を持つからである。

筆者の調査では、異性愛女性のインフォーマントにとっては、それは自分の性的欲求やファンタジーを知るための手段であった。マッチングアプリは、彼女達が自分のセクシュアリティを試すための実験室のようなものなのだったのである。たとえば、小嬌 (Xiaojiao) はTantanで知り合った男性と付き合ったことについて語ってくれた。

以前はセックスについて何も知らなかった。彼は私の先生だった。彼からセックスを（ロマンチックな関係から）切り離す方法を学んだと思う。

もう一人の女性、クィニー (Queenie) もTantanでセックス・パートナーと出会っていた。彼女に恋愛をセックスと切り離せるかどうか尋ねたところ、こんな答えが返ってきた。

いいえ。つまりそのプロセスを楽しんでいます。でも、その前に（相手が）大丈夫か、面白いかどうかを考えないと。見ず知らずの人は、ある種のファンタジーをもたらししてくれるけど、愛のないセックスということになると、うまくいかない。バランスをとらないと。

このように、シャオジャオはパートナーを決めずにセックスを楽しむことができたが、クィニーは、自分を幸せにするのは、親しみやすさと奇妙さの間にある曖昧さだと理解していた。つまりマッチングアプリは、正規の学校教育や家庭教育では扱いきれない重要な人生の側面であるセックスとロマンスの関係を考える機会や資源を女性に提供する実験室のようなものとなっているのである。

男性の異性愛者の場合、しばしばセックスを求めることを生理的なものと見

なしていた。男子大学生のシャオリー (Xiaoli) は次のように語っていた。

Tantanをダウンロードしたのはナンパのためです。高校を卒業したばかりで、とても退屈していて。家に居ても何もすることがないので、ダウンロードしてみたんです。他の人はどうかわかりませんが、自分の現状では、一種の生理的な依存です。誰もがそう考えるけど、少なくとも男の場合は、必要に迫られてアプリを使っていると思う。

生理的依存や「誰もがそう考える」という表現は、彼がTantanを使ってナンパすることを正当化するだけでなく、彼の行動を生物学的なメカニズムや社会的な規範に結びつけていることを意味する。マズローの欲求段階説 (Maslow, 1943) を思い出させるが、シャオリーのような若い男性は、ナンパを生理的欲求の充足と考えており、これは階層の中でも最も低いレベルである。一方、女性のインフォーマントは、ナンパは自分自身を知るための旅、つまり自己実現のためのものだと考えていた。

クィア女性のインフォーマントに話を移そう。彼女達はアプリでセックスの相手を探していたが、その実践はストレートの女性やゲイの男性ほど広がってはいなかった。インフォーマントの女性達が所属するクィア女性のコミュニティでは、セックスの文化が重視されていない。ベッキー (Becky) の例を見てみよう。彼女はバイセクシュアルであると自認している。彼女は、ゲイ男性とレズビアンとのセックス文化について次のように述べた。

レズビアンとゲイ男性は全く違います。ゲイの場合は、お互いに“大丈夫”と思ってからセックスをするのかもしれないけど、レズビアンの場合は、おしゃべりして、おしゃべりして、おしゃべりして、おしゃべりし続ける。疲れるんですよ。チャットを続けるとお互いを理解できるけど、それはデートのためではないです。人生について、野心について、さまざまなトピックについて話すんです。そうして初めて、セックスの可能性が出てきます。

つまりクィア女性のインフォーマントにとって重要なのは、付き合うという行為ではなく、そこに至るまでのコミュニケーションなのである。ネットワーク化された性的公衆のジェンダーや性的アイデンティティによって、セックスを求める行動はさまざまに解釈されているのだ。

アプリの利用行動に関するさまざまな解釈に注目するならば、今後の研究で

はインターセクショナルな考えを取り入れることが重要だろう。キンバリー・クレンショーは、アフリカ系アメリカ人女性が、ジェンダーと人種により二重に不利な状況に置かれていると述べている (Crenshaw, 1989)。すなわち、ジェンダーと人種が交差することで、アフリカ系アメリカ人女性が直面する不平等というものが生み出されているのだ。

同様に、マッチングアプリのユーザーが直面している苦悩に関する分析においても、ネットワーク化された性的な公衆はそれぞれ、男性か女性、ストレートかクィアの二つのアイデンティティを持つ。しかし、年齢はどうか。階級や、中国の場合は都市と農村の格差はどうか。ユーザーがアプリを解釈したりセックスを求めることに影響を与えるかもしれない多くの未解明の交差が存在している。

キャラ・ワリスは著書『中国におけるテクノモビリティ (*Technomobility in China*)』(2013)の中で、交差的な考え方をすることで「テクノロジーが異なるグループに対して持つ意味が含む細かいニュアンスや多様な色合いを抽出し、テクノロジー、文化、社会の変化についてより豊かで『厚みのある』理解をすることができる」(Wallis, 2013: 188)と結論づけている。

筆者は、冒頭で紹介した自著の中で男性と女性、ストレートとクィアのマッチングアプリユーザーの経験について議論した。そうすることで、中国の文脈におけるマッチングアプリのジェンダーとクィアのポリティクスの見取り図を、単なる性的な出会いや接触についての議論以上のものとして提示した。

筆者の研究が明らかにしたように、マッチングアプリはただのナンパではない。その文化の中には、研究するに値する重要な問題があるのだ。筆者が提唱する「ネットワーク化された性的公衆」の概念は、私たちにこのことを思い起こさせるのである。

ネットワーク化された性的公衆が何かであるとすれば、それは可能性に関するものである。自らを発見する可能性、よりジェンダー平等で、よりクィアに優しい世界を実現する可能性、そして新しい形の公衆を想像する可能性である。

(ちゃん りくさむ 香港中文大学)

[注]

- 1) 本稿は、国際ジェンダー学会2021年大会シンポジウムでの報告を再構成したものである。日本語原稿の作成にあたっては、本シンポジウムの企画者・司会であり、大会資料の日本語訳(発表原稿及び発表スライドの和訳)に関わった田中洋美さん(明治大学)の協力を得た。本稿で論じるマッチングアプリ文化に

関するより詳細な分析については、Chan (2021) を参照のこと。なお、マッチングアプリは英語では dating app という。日本ではマッチングアプリの他に出会い系アプリ、デートアプリと呼んだり、婚活に特化したものについては婚活アプリと呼ばれているが、本稿ではマッチングアプリとする。

2) 親友会 (PFLAG China) は、親、友人、アライに働きかけることを通じて性的少数者にとってより良い世界を作ることを目指す草の根組織である。

[参考文献]

- Blackwell, C., Birnholtz, J., & Abbott, C. (2014). Seeing and being seen: Co-situation and impression formation using Grindr, a location-aware gay dating app. *New Media and Society*, 17(7), 1117–1136. <https://doi.org/10.1177/1461444814521595>
- boyd, d. (2011). Social network sites as networked publics: Affordances, dynamics, and implications. In Z. Papacharissi (Ed.), *Networked self: Identity, community, and culture on social network sites* (pp. 39–58). Routledge.
- Butler, J. (1999). *Gender trouble: Feminism and the subversion of identity*. Routledge.
- Chan, L. S. (2021). *The politics of dating apps: Gender, sexuality, and emergent publics in urban China*. MIT Press.
- Crenshaw, K. (1989). Demarginalizing the intersection of race and sex: A black feminist critique of antidiscrimination doctrine, feminist theory and antiracist politics. *University of Chicago Legal Forum*, 1989(1), 139–167.
- Crooks, R. N. (2013). The rainbow flag and the green carnation: Grindr in the gay village. *First Monday*, 18(11). <https://doi.org/10.5210/fm.v18i11.4958>
- Foucault, M. (1979). *The history of sexuality* (R. Hurley, Trans.). Allen Lane.
- Katz, E., Blumler, J. G., & Gurevitch, M. (1973). Uses and gratifications research. *The Public Opinion Quarterly*, 37(4), 509–523. <https://doi.org/10.1086/268109>
- Marinucci, M. (2010). *Feminism is queer: The intimate connection between queer and feminist theory*. Zed Books.
- Maslow, A. H. (1943). A theory of human motivation. *Psychological Review*, 50(4), 370–396. <https://doi.org/10.1037/h0054346>
- Wallis, C. (2013). *Technomobility in China: Young migrant women and mobile phones*. New York University Press.

The Emergence of Networked Sexual Publics in Dating App Culture

Lik Sam Chan

(The Chinese University of Hong Kong, Hong Kong)

Dating apps are not just for hookups but both portals to an exciting virtual world of relational possibilities and sites of power dynamics that reflect the heteronormativity and patriarchy of Chinese society. In this paper, I explain “networked sexual publics” as a theoretical concept to capture the gender and queer politics of dating app culture. I specifically explain two out of five features of “networked sexual publics.” First, dating apps are a site for resistance and dominance. I will illustrate how straight women and the queer communities make use of the various affordances of dating apps to resist patriarchy and heteronormativity, while the latter forces also re-claim their territory. Second, the meanings that dating app users attach to the apps cannot be reduced to psychological motives. With concrete examples, I explain how sex-seeking carries different social meanings to users of different gender and sexual orientation. Through explaining the concept “networked sexual publics,” I map our possible paths for future intersectional, queer, and feminist scholarship on emerging communication technologies.

Keywords: dating apps, gender and queer politics, communication technology, China